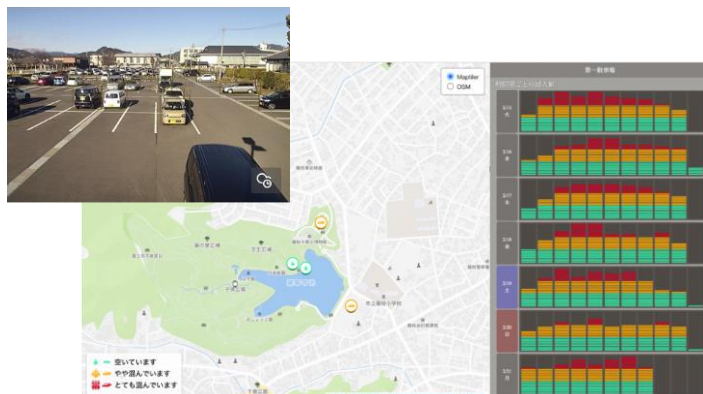


# 蓮華寺池公園の利用状況を可視化

市民への情報発信を検討するため、（１）公園駐車場の混雑、（２）園内スポットの利用状況を計測して可視化することを試行した。計測はカメラのほか、スマートフォンのWiFiパッケージセンサーなどを活用した。



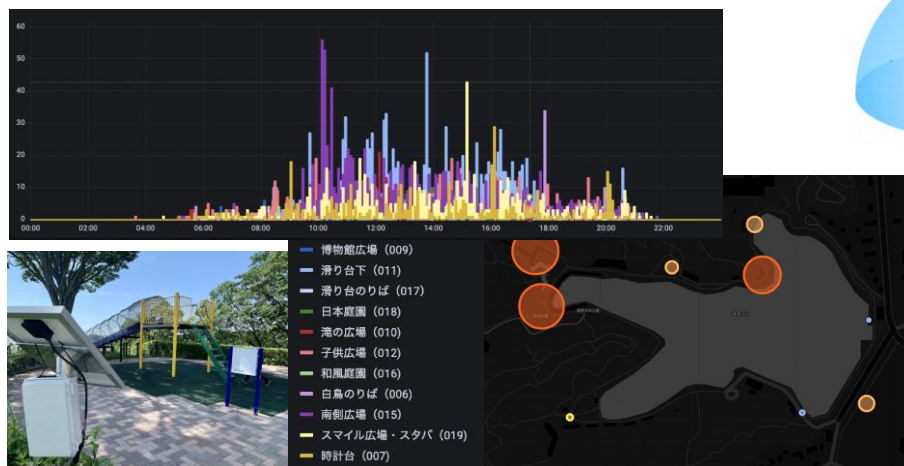
カメラによる駐車場の混雑状況把握



カメラ画像から駐車場内を撮影し、その画像から駐車場の混雑状況を赤、黄、緑の三段階で表示するシステムを試作した。



公園内11ヶ所についてWiFiパッケージセンサーを使って5分毎の滞留状況をオンラインで確認するシステムを試作した。



WiFiパッケージセンサーによる公園内の滞留状況把握

計測手法の性質から実数を計測するものではないが、時系列の変化を捉えていることができた。公園内の時間帯毎の利用状況から施設別の利用特徴、特に早朝から夜間にかけてウォーキング目的の利用者が多いほか、子供向け施設は午前と午後とに二つのピークがあることなどがわかった。また、平日と休日との間に利用者数の差が3倍あることなどわかった。



## 商店街と蓮華寺池公園の相互利用状況（人の移動状況）を調査

地域間の人の流動を把握する取り組みの中で、蓮華寺池公園と藤枝地区商店街との人の移動状況を携帯電話のGPS（位置情報）をベース（2021年1月から10月）に、地域間の移動状況を推定した。推定精度を高めるために、IoTデバイス計測による実測値を活用した。



### 携帯GPSデータ：

携帯利用者数はサンプルデータとなるため、国勢調査の夜間人口を参考に拡大係数を求め人数を推定するが、ここではIoTデバイス（LiDARセンサー）計測による実測値も参考に、拡大係数の改良を図った。

これまで夜間を対象にする拡大係数であったものが、時間帯毎の拡大係数が求まることから、推定精度を高めることができた。従来の手法（国勢調査参照ベース）では過大な推定となることがわかった。精度向上の余地があることがわかり、そのためには実測計測データを増やす必要がある。

対象地域内において携帯GPSデータのサンプル数が少ない箇所については、個人情報保護の観点からデータの秘匿処理が行われた。

**公園・商店街間移動状況：**公園と商店街間の移動が多かったのは、5月と10月の休日で、他の月は平日、休日ともに差は見られなかった。

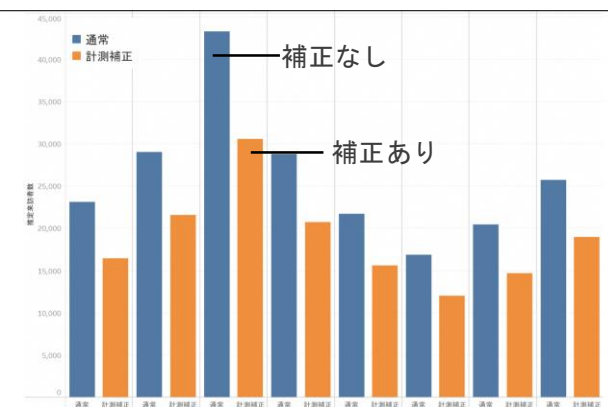


図3.5.6 拡大推計の結果の比較（地域別の結果の合計・月別）

### 拡大係数補正の効果

